

最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。

分析は、全て、先週末5月20日、日足終値時点(NY時間午後5時)での判断です。尚、内容は、私の有料情報サービス「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)から一部抜粋(毎日お届けしている中で、月曜日の朝一番の配信分のみ)です。毎日の配信をご希望の方は、ぜひ「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)をご覧ください。(動画配信を毎日行っております。無料お試し期間もあります。)

ところで、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断です。そして、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断です。

◆「マーフィーFX」YouTubeチャンネルはこちらです。

<https://www.youtube.com/channel/UCTQj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々な相場解説を無料動画で視聴出来ます。

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

★「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

そして、トレード戦略の解説は、YouTubeで配信している「実践トレード解説」をご参考にしてください。

■ドル円

<<週足分析>>

当面の高値(131.35円)を付けて以降、「リバーサルパターン」が発生しており、依然として続落しやすい地合いと読む。

一方、スーパーボリンジャー上は、本格上昇トレンド局面の条件は満たしている。今後、終値と下値サポートである+1σラインとの位置関係を注視したい場面。すなわち、終値が+1σラインをキープするかぎり本格上昇トレンド継続となる一方、終値が同ラインを下回る場合、週足ベースでも調整反落局面入りする。

<<日足分析>>

調整反落局面の最終ターゲットである-2σラインに到達。

今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。すなわち、遅行スパンが陰転し、日足終値が-2σラインを下回り、バンド幅が拡大傾向となると、本格下落トレンド入りのサインとなる。さもないと、目先、一旦はレンジ局面に入る。

<<4時間足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が-2σラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインが再点灯中。

<<1時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2σラインをブレイクすること、等々。

■ユーロドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、上値レジスタンスであった前週の高値 1.0590 をブレイクしたため、反転上昇しやすい地合いにあると判断される。つまり、「トレーレンジストップ」が付いた格好。「リバーサルパターン」が発生したことで、底堅く堅調に推移しやすい地合いと読む。「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、(2)終値が -2σ ラインを上回ること、の両方を満たすこと。

<<日足分析>>

本格的な調整反騰局面。

終値がセンターラインを上回ったことで、緩やかな下落トレンド局面のシナリオは崩れ、本格的な調整反騰局面に入った格好。

戻り上昇のターゲットは $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインとなる。

<<4時間足分析>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインのとの位置関係を注視したい場面。

買いシグナルの順行パターンの買いサイン点灯する一方で、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中。

<<1時間足分析>>

下落バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、

4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2ラインをブレイクすること、
等々。

尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中だが、すでに、逆行パターンの売りサイン点灯時の最終ターゲットである-2ラインには到達済み。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、遅行スパンは、安値を付けたローソク足を通過してきており、底堅く推移。

週足ローソク足の形状(下ヒゲが長い)から判断して、引き続き底堅い地合いを示唆。

<<日足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が-2ラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインが再点灯。

<<4時間足分析>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1ラインから+2ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1ラインから-2ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2ラインの上方にて引ける、もしくは、-2ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2ラインをブレイクすること、
等々。

買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

<<1 時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中だが、すでに、逆行パターンの売りサイン点灯時の最終ターゲットである -2σ ラインには一旦到達済み。

■ポンドドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、「リバーサルパターン」が発生したことで、反転上昇しやすくなっていると読む。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、
(2)終値が -2σ ラインを上回ること、の両方を満たすこと。

一方、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサインが点灯中。

<<日足分析>>

調整反騰局面。

終値がセンターラインを上回ったことで、調整反騰局面が本格化したと判断される。

そして、緩やかな下落トレンド局面のシナリオは一旦消滅した格好。

<<4 時間足分析>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 逆行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、

- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+2ラインをブレイクすること、
等々。
- 買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

<<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

■ユーロ円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、
終値が+2ラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、「リバーサルパターン」発生後、軟調に推移、続落しやすい地合いと読む。

買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインも点灯中。

<<日足分析>>

下落バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1ラインから+2ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1ラインから-2ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2ラインの上方にて引ける、もしくは、-2ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+2ラインをブレイクすること、
等々。

<<4 時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

■豪ドル円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2のラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、「リバーサルパターン」発生後、軟調に推移、続落しやすい地合いと読む。

<<日足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が-2のラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

<<4 時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1のラインから+2のラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1のラインから-2のラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2のラインの上方にて引ける、もしくは、-2のラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、

4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2ラインをブレイクすること、等々。

<<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中だが、すでに、逆行パターンの売りサイン点灯時の最終ターゲットである-2ラインには到達済み。

■ポンド円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2ラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、「リバーサルパターン」発生後、軟調に推移、続落しやすい地合いと読む。

<<日足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が-2ラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

<<4時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1ラインから+2ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1ラインから-2ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2ラインの上方にて引ける、もしくは、-2ラインの下方にて引ける、

- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2のラインをブレイクすること、等々。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
尚、買いシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断となる。

以上です。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネル登録のご案内。

<https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々なマーフィー流相場分析、解説が動画で無料視聴出来ます。

◆マーフィー流 FX「実践トレードコーチング専用」ライン@のご案内。

以下より登録できます。

<https://www.span-model.com/line/>

◆「スパンオートトレーダー(SAT)」のご案内。

「スパンオートトレーダー(SAT)」とは、「裁量トレード」と「自動売買(EA)」の良いとこ取りをした、とても便利なトレードツールです。

「スパンオートトレーダー」の詳細、及び、お申込みページはこちらです。

<https://www.xfine.info/satrader/>

◆「スパンオートシグナル」のご案内。

スパンモデルを有効に使いこなす為のきわめて強力なツールです。
スパンオートシグナルのご紹介、および、ご購入用ページはこちらです。

<https://www.xfine.info/sauto/>

以上です。